

Press Release



2018年8月3日

コベストロジャパン株式会社

このプレスリリースは7月26日にドイツ・コベストロ社が発表したものを日本語に翻訳したもので、報道関係者各位へ参考資料として提供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については英語を優先します。原文は www.covestro.com をご参照ください。

さらなる成長に向けた投資拡大を計画

コベストロ、第2四半期の力強い業績により

ガイダンスを上方修正

- グループの売上高は10.4%増の約39億ユーロ
- 主要製品の販売量は4.4%増
- EBITDAは16.2%増の9億8千5百万ユーロ
- 純利益は24.8%増の6億4百万ユーロ
- フリー・オペレーティング・キャッシュフロー(FOCF)は14.1%増の3億6千4百万ユーロ
- EBITDA、FOCF、および使用資本利益率(ROCE)のガイダンスを上方修正

ドイツ・レバクーゼン、2018年7月26日 -

コベストロは、2018年の好調なスタートに続き、第2四半期も力強い業績を継続しました。販売価格の上昇と需要の高まりにより、グループの売上高は前年同期比で10.4%増の約39億ユーロとなりました。主要製品の販売量は4.4%増で、3事業すべてにおいて成長率がプラスとなりました。EBITDAは16.2%増の9億8千5百万ユーロ、純利益は6億4百万ユーロで、前年同期比で



24.8%増となっています。フリー・オペレーティング・キャッシュフロー（FOCF）は14.1%増の3億6千4百万ユーロでした。

「世界中で当社製品の継続的な需要があります。これは、当社製品が重要なグローバルトレンドに貢献しており、当社の戦略がさらなる成果を挙げるであろうことを示しています。第2四半期には主要な指標がすべて向上しました。この力強い業績を踏まえ、当社は通年のガイダンスを上方修正します」と、最高経営責任者（CEO）のマーカス・スタイレマンは述べています。この修正はEBITDA、FOCF、および使用資本利益率（ROCE）に適用されます。

「当社は、長期的な成長維持のため、さらなる投資の拡大も予定しています」と、スタイレマンは説明しました。この投資計画には、あらゆる地域のさまざまな場所で3事業すべての生産拡大が含まれます。一例として、急激な需要の高まりに対応するため、約1億ユーロを投資してグローバル全体のフィルム生産を大幅に拡大することを発表しました。さらに、タラゴナ（スペイン）の生産拠点では、自社塩素生産施設の新設と、硬質フォームの原料であるMDIを生産する現施設の増強のため、約2億ユーロを投資します。また、ブルンスビュッテル（ドイツ）のMDI生産とカオジン（中国）のポリカーボネート生産の能力増強を予定しています。

持続的な成長の見通しは変更なし

「当社では主要な顧客産業において堅実な成長が見られることから、2018年の投資を6億5千万～7億ユーロに増額します」と、最高財務責任者（CFO）のトーマス・トゥプファーは述べています。今後3年間で、このような年次資本支出（capex）をさらに12億ユーロまで増加させる予定です。これにより、目標とする生産能力の拡大だけでなく、施設の新設が可能となります。

現在、一部の製品分野、特に軟質フォームの原料であるTDIについて市場価格の正常化の兆しが見られます。「したがって、当社の目標は、自社の製品ポートフォリオの周期的な変動をさらに抑え、成果を生む開発を継続していくことです」と、トゥプファーは説明を加えました。この目標に対しては、主として自動車、電子、ヘルスケア産業などに向けて高度に差別化を図った新たなアプリケーション開発によって達成を目指します。

主要な顧客産業において中期的に持続的な需要の高まりが期待されることから、主要製品の販売量の伸び率は年率約4%と予測されています。したがって、コベストロは世界各国の国内総生産（GDP）より高い伸び率での成長を継続する予定です。同時に、コベストロは現在の地政学的な不確実性についてもモニタリングを行っています。



コベストロは自社株取得プログラムをさらに進め、第2四半期に第2回目を開始しました。これまでに、総額8億ユーロ以上の株式（株式資本の約5%）を取得しています。全体として、コベストロは2019年中頃までに総額で最大15億ユーロ、または最大10%の自社株取得を目指しています。進行中の自社株取得プログラムの成果の一つとして、一株当たりの利益は28.5%増の3.07ユーロとなりました。

EBITDA、FOCF、およびROCEのガイダンスを上方修正

2018年上半期の力強い業績を踏まえ、コベストロは2018年通年のEBITDA、FOCF、およびROCEの見通しを上方修正します。コベストロでは現時点で、2018年通年のEBITDAが前年の水準を上回り、FOCFは20億ユーロを超えると予測しています。ROCEは2017年の水準と同等になる見込みです。コベストロは、2018年の主要製品の販売量の伸び率は依然として1桁台前半から半ばの範囲と予測しています。従来通り、この予測は通常のGDP環境に基づくものです。2018年第3四半期には、EBITDAは前年の水準と同等になると予測しています。

2018年第2四半期：3事業すべてが成長

2018年第2四半期のポリウレタン事業の売上高は、8.1%増の19億6千6百万ユーロとなりました。すべての地域で売上高が増加しました。主要製品の販売量は3.9%増、これは主としてMDI製品グループの伸びによるもので、EBITDAは6.2%増の5億8千3百万ユーロとなりました。

ポリカーボネート事業の売上高は、販売価格の上昇を主とするプラス効果により、第2四半期に特に力強い成長を記録し、15.9%増の10億5千6百万ユーロとなりました。主要製品の販売量は5.3%増で、特にアジア・パシフィック地域での販売量の増加が貢献しました。EBITDAは44.7%増の2億8千5百万ユーロとなりました。

塗料・接着剤・スペシャリティーズ事業でも、売上高は前年同期比で大幅に増加し、4.1%増の6億2千9百万ユーロとなりました。主要製品の販売量は5.8%増で、3事業で最も高い伸び率となりました。EBITDAは14.9%増の1億3千9百万ユーロでした。

2018年上半期は好調な業績を持続

全体として、2018年上半期のコベストロの業績は非常に好調でした。グループの売上高は前年同期比で7.9%増の約76億ユーロとなりましたが、これは主として3事業すべてにおける販売価



格の上昇によるものです。グループ全体では、2018年上半期の主要製品の販売量は、前年同期比で2.2%増となりました。EBITDAは、主にポリウレタン事業とポリカーボネート事業における利益率の改善により、20.9%増の約20億ユーロとなりました。純利益は約12億ユーロで、31.1%増となりました。FOCFは37.4%増の7億2千8百万ユーロでした。

.....

コベストロ社について

コベストロ社は2017年売上高が141億ユーロの世界最大のポリマー製造企業のひとつです。主たる活動分野は、高性能ポリマー材料の生産、および日常生活の多くの分野で使用されている製品の革新的ソリューションの開発です。主要な顧客は、自動車、建築、木材加工や家具、電気・電子、スポーツ・レジャー、コスメティック、ヘルス、そして化学の各産業です。コベストロ社は、世界中の30拠点に生産施設があり、社員数は2017年末で約16,200人です。詳しくはこちらをご覧ください。covestro.jp

【この件に関するお問い合わせ先】

コベストロジャパン株式会社

〒105-0011 東京都港区芝公園 1-7-6 クロスプレイス浜松町 7F

広報部 梅澤 Tel:03-6403-9112 / Fax:03-3436-1540



コベストログループの主要データ

	2017年 第2四半期 (百万ユーロ)	2018年 第2四半期 (百万ユーロ)	前年比 %
主要製品販売量	-1.7%	+4.4%	
売上高	3,498	3,863	+10.4
売上高差異			
販売量要因	+0.6%	+4.9%	
価格要因	+15.3%	+9.9%	
為替要因	+1.1%	-4.4%	
製品構成要因	0.0%	0.0%	
EBITDA ^{※1}	848	985	+16.2
EBIT ^{※2}	687	826	+20.2
当期純利益	484	604	+24.8
フリー・オペレーティング・キャッシュフロー	319	364	+14.1

※1 金利・税金・償却前利益

※2 金利・税引前利益

将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements)

このニュースリリースには、コベストロ社による現在の試算および予測に基づく将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements) が含まれている可能性があります。さまざまな既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因により、将来の実績、財務状況、企業の動向または業績と、当文書における予測との間に大きな相違が生じることがあります。これらの要因にはコベストロのウェブサイト (www.covestro.com) に公開されている報告書に説明されているものが含まれます。コベストロは、これらの将来予想に関する記述を更新し、将来の出来事または情勢に適合させる責任を負うものではありません。